

日本食品保健指導士会会報

〔第26号〕

■発行：平成22年1月1日
■発行所：日本食品保健指導士会

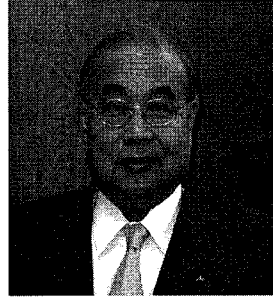
東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL. 03-3268-3160 FAX. 03-3268-3136

(財団法人日本健康・栄養食品協会教育研修部内)

『齢70を迎えて―転ばぬ先の杖―』

財団法人 日本健康・栄養食品協会 副理事長
(湧永製薬株式会社 取締役副会長)

不破 亨



皆様にはお元気に新年をお迎えになられたことと存じます。私はこの一月で七〇歳を迎える。東京の大学の職場を辞し、岳父が経営するOTC薬専門の製薬企業の技術部門に移り、五年が過ぎ去った。生まれて此の方、丁度半生をこの広島の中

山間地域の職場で過ごしたことになる。

当時を振り返ると、初めて取り組んだ仕事は、同じ年に厚生省から通達されたGMPであった。当初は手引書もなく、いくつかの米国製薬企業を見学して得た知識などを基にハード、ソフト両面から取り組んだが、正直、手探りの状態であった。GMPは順法精神の定着と、製品の品質保証を旨としたので、特に品質管理と製品クレームの洗い出しに重点を置いて取り掛かった。

これと時を同じくして、米国におけるニンニク製品の輸出販売が開始され、米国における健康食品の規制に携わることになった。我国では医薬品扱いであった製品が、米国では健康食品であったので、日本とは違った製品表示の難しさを克服しなければならぬ。表示の中で一切、効能、機能に触れることが出来ない上、文字のレイアウトにも規制があったのである。ワシントンのFDA担当の弁護士との助言を頂き、CFRと首っ引きでそれを乗り切った。

間もなくして米国カリフォルニアに生産拠点を設け、本格的な製造販売に踏み切ったのである。今や販売先は、四〇数カ国に及んでいる。また、今はFDA・GMPに準拠した生産に切り替えている。

ニンニクの研究や学術面でも我国の研究だけでなく、米国、欧州の研究機関との協同研究も推進し、その成果は、四回にわたり米国内で開催された「国際ニンニクシンポジウム」とジャーナルで発表した。デザインナーフーズ計画を推進したNCI、故ピアソン博士や元全米栄養学会会長で現NCI職員のミルナー博士など、多くの研究者と議論を重ねてきた。これらの一連の仕事は製品を市場に定着させるための杖といえよう。

私共は、日本ではOTC薬企業であるが、健康食品も扱っている。OTC薬の効能等で補えない領域と位置付け、私自身も体力維持のため、毎日両方を数種類ずつ服用している。健康増進、とりわけ健康寿命の延長は大きな課題である。そのために、医療に加え私共健康関連企業の存在が不可欠である。

健康寿命を延長させ、元気に長生きするためには、食と医療に加え、運動が重要であることは、現在、多方面で議論されている。私の知人の整形外科病院の院長は、「健康寿命を延ばすには、自分達の領域がもっとも重要だ。」と持論を述べられる。骨折などで寝たきりになることが一番の大敵であるというのである。生まれながらの弱視に加えて、高校の頃から隻眼となってしまう私は、いつもつまずき転ぶことを恐れている。そこで足腰の鍛錬は欠かせない。そのため、毎朝の運動と、休日の一万歩ウォーキングに励んでいるのである。これぞ転ばぬ先の杖である。

病気にかかり病院通いをするのではない体力作りがまず第一です。食品保健指導士の皆様には「健康で長生き」を目指した、日頃のご指導をお願いして筆を置きます。

新年号に寄せて

日本食品保健指導士会 会長 関本 邦敏



明けましておめでとございます。

不況の中、健康食品業界も荒波に直面しておりますが、皆さま方も苦勞されて

おります。お陰様で日本食品保健指導士会(以下指導士会と記す)も八年目を迎えました。昨年未で資格取得者が九三九名になりました。幹事会では、食品保健指導士(以下指導士と記す)の資格の知名度をなんとか高めるための活動に注力していますし、将来的には公的資格になることも期待しています。そのためには本部の行事や支部の活動、(財)日本健康・栄養食品協会の講習会あるいは学会などに積極的に参加し、常に自己研鑽に努めていただくことをお願いしております。また、指導士の実力を世間に知っていただくための活動として、地方行政関連機関や市民講座などへの講師派遣を積極的に行っております。過日、講師希望を募集したところ四五名の応募を頂いております。適宜お願いしていく所存です。まだ派遣要請が少ないことから限られた方しかお願いができておりません。新年度はより積極的に開拓をしてまいる所存です。

新たに講師をすることのご希望があれば指導士会へメールでご応募下さい。

昨春秋に独立行政法人国立健康・栄養研究所の梅垣敬三情報センター長名でアンケートを求められたことをご記憶のことと存じます。これは平成二一年度厚生労働科学研究の予算で、梅垣センター長を中心に鈴鹿医療大の長村洋一教授(昨年年名古屋での秋期研修会で講師をお務め頂きました)や、慶應大学医学部の信川益明教授(指導士養成講習会の講師)などが関係しており、沢山ある健康食品アドバイザースタッフの中から有力な団体について資格制度の現状調査を行う調査研究科研究費によって実施された研究活動の一環です。

この動きはまさに厚生労働省がアドバイザー資格の公的資格化への動きとして業界では捉えられております。そのことが健康産業新聞の第一二九九号(昨年六月発行)に取り上げられております。読まれてご存知の方も多いと思いますが、そうでない方もいるかと思えますので概略ピックアップしてみましよう。健康食品アドバイザーには、NR(国立健康・栄養研究所)、JCN Aサプリメントアドバイザー(日本サプリメントアドバイザー認定機構)、食品保健指導士、健康食品管理士(健康食品管理士認定協会)などの民間資格が乱立。主要な資格の認定者だけで一四、〇〇〇人を超える。健康食品の情報提供者の社会的なニーズは高いが、こうした人材を受け入れる企業等がその必要性を判断しにくく、資格取得者が十分に活動できる場が少ないと

いう問題点があった。

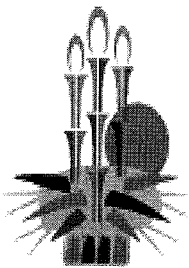
このたびスタートする研究は、厚生省の研究補助金で「健康食品の情報システム体制の構築と安全性確保に関する研究」として三年間で実施する。

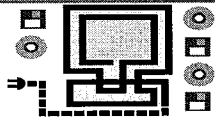
各団体間の資格制度の比較、認定者のレベルや社会で役立つているかなどを検討することになっていくようです。

三年後に出される研究報告では、公的資格としての必要性が提起されるものと思えます。まさに我々が願っていたことでもありますので、この機会をぜひ有効に生かしていく行動をしたいと考えております。

幸い研究分担者である鈴鹿医療大の長村先生とは秋期研修会にお招きしたことで、情報交換を密にしてともに頑張りましょうということになりました。指導士の方の中にも他のアドバイザースタッフの資格を併せ持っている方が結構見受けられます。垣根を作ることなくお互いに切磋琢磨する関係の構築に努力されることを期待してやみません。目的は皆同じはずですから。

今年も業界の健全な発展と消費者の健康促進に貢献できる指導士として努力をしていきます。皆様の「健勝とご多幸をお祈りいたします。



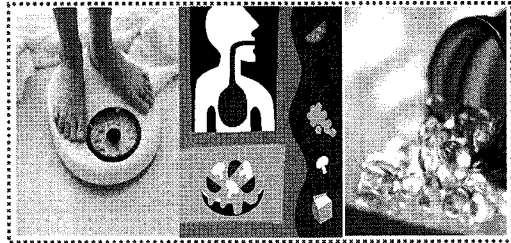


連載企画 数字でみる健康食品

健康食品に関連した行政報告・学術調査などの統計・データの読み解きコーナーです。

鮮度のよい、面白い話題をピックアップしていきます。ご利用ください。

肥満者の割合		平成7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
男性 20-60歳代	人	3,692	3,653	3,493	3,695	3,030	3,210	3,030	2,791	2,701	2,217	2,060	2,272	2,305	2,276
	%	24.8	24.0	24.3	27.4	26.6	27.6	29.3	29.4	29.5	29.0	29.3	31.6	31.2	29.6
女性 40-60歳代	人	2,835	2,889	2,770	2,896	2,475	2,526	2,507	2,326	2,276	1,867	1,796	1,886	1,902	1,963
	%	26.0	25.2	25.2	25.3	25.5	24.9	24.5	26.4	25.0	24.6	24.6	24.1	23.0	21.7



今回取り上げるのは、厚生労働省2009年11月発表「平成20年国民健康・栄養調査結果の概要」です。すでに、この結果については、ご存じの方も多いと思います。そこで、他の資料と比較してみましよう。

肥満者の割合

男性約29.6% 女性約21.7%

1995年ランキング・患者数			2025年推計患者数		
1	インド	1940万人	1	インド	5720万人
2	中国	1600万人	2	中国	3760万人
3	アメリカ	1390万人	3	アメリカ	2190万人
4	ロシア	890万人	4	パキスタン	1450万人
5	日本	630万人	5	インドネシア	1240万人
6	ブラジル	490万人	6	ロシア	1220万人
7	インドネシア	450万人	7	メキシコ	1170万人
8	パキスタン	430万人	8	ブラジル	1160万人
9	メキシコ	380万人	9	エジプト	880万人
10	ウクライナ	360万人	10	日本	850万人
その他各国計		4970万人	その他各国計		10360万人
総計		13530万人	総計		30000万人

IADSA資料より; King et al.

この調査結果によると、なんと、日本人の男性の29.6%・女性の21.7%が肥満!! 肥満(BMI \geq 25)傾向が続いています。

ちなみに、健康日本21が目標とする肥満者割合は男性15%以下、女性20%以下です。...さて、目標は達成できるでしょうか。さらに、気がかりなデータがあります。約10年前に発表されたもので、世界の糖尿病患者の1995年のトップ10と2025年の患者を推計しています。このデータでは、1995年の日本の糖尿病患者は630万人(世界5位)ですが、2025年には850万人(世界10位)になると予想されていました。ところが、2007年の糖尿病実態調査で、糖尿病患者は870万人、予備群は1320万人と報告されています。すでに2025年水準を超えています。つまり、予想をはるかに上回って、糖尿病患者が増加しているのです。

日本だけではありません。米国保健福祉省は最近、米国人の2400万人(8%)が糖尿病患者と警鐘を鳴らしています。予備群は5700万人にも上っています。

世界中で肥満が“大流行”と言われています。生活習慣病では、日々の栄養摂取が重要なファクターとなることから、健康食品、サプリメント、機能性食品の役割が評価されています。人気カテゴリー「抗肥満」は、これからも存在感を増していきそうです。

《特集》

食品保健指導士の

職場を訪ねて⑩

(学)食糧学院

東京栄養食糧専門学校

理事長 理学博士

岡部 敬一郎 さん



・昭和二年山口県生れ
・昭和五〇年、東京大学
大学院理系研究科博士課程修了・理学博士
号取得(生物化学)
・医薬品・食品・化粧品・
バイオテク・DSS等の
研究開発活動を経て
平成二一年より現職
に就任、現在に至る
・平成一七年、食品保健
指導士資格取得

(財)日本健康・栄養食品協会(以下日健
栄協と記す)主催のJHFA素材勉強会や日
本食品保健指導士会(以下指導士会と記す)
主催の秋期会研修会で、よく専門的な質問を
され、回答者に対しては丁寧にお礼を述べら
れる、まさに紳士とよぶに相応しい人、その

人こそ食品保健指導士(以下指導士と記す)の岡部さんなのです。今回(二月七日)、今春から校長としてお勤めの東京栄養食糧専門学校(世田谷区池尻)を関本会長、杉浦事務局長、松山幹事(会報担当幹事)の三名でお訪ねしました。

日々、管理栄養士合格率第一位の専門学校校長の責任を感じています。

(関) 本日はお忙しいところ、時間を割いていただきありがとうございます。

(岡) こちらこそ御来校有難うございます。(関) こちらの学校のキャンパスに入ったとたん独特の雰囲気を感じました。相当由緒ありそうですね

(岡) はい、今春七〇周年を祝いました。本校は、栄養士法制定(昭和二年)八年前に、栄養士養成施設として開校、栄養学校の草分け的存在として知られております。

(関) なるほど、第二次世界大戦前の設立ということになりますね。

(岡) はい、詳しくご説明いたしますと、本学院の母体「糧友会」が大正一四年、陸軍糧秣本省の外郭団体として発会し、目的の一つに食糧に関する教育機関設立を掲げ、財団法人「糧友会」として昭和一四年、食糧・栄養・調理の指導者養成のため、栄養科、調理士科、製パン科、缶詰科を設置し当校の前身の「食糧学校」が初代校長三井清一郎(元陸軍経理局長・糧友会会長)で開校と記録されています。

(関) 軍隊での栄養管理のニーズもあったの

でしょうか。

(岡) そうですね。日露戦争で陸軍は白米を兵糧とし脚気患者を多数出したことから栄養食糧問題と真剣に取組んだことが判ります。

(関) 麦飯を食べていたので脚気患者が出なかったという海軍と比較される有名な話ですね。当時の陸軍軍医はあの森鷗外ですね。

(岡) そうです。しかし、栄養問題は、軍隊だけではなく国民の問題としてとらえ、食糧学校開校目的に食生活改善・健康体位向上・栄養指導の専門家養成があったわけです。

(関) よく分りました。

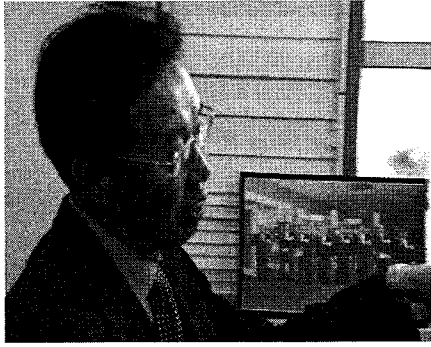
(岡) 学校法人「食糧学院」は、東京栄養食糧専門学校と東京調理専門学校と東京ホテルビジネス専門学校を経営し、「食と健康と美の未来を担う創造と科学と実践の教育」を指しております。本校には、管理栄養士科(四年制)、栄養士科(二年制)と製菓カフェ経営科(二年制)、栄養教諭(一種、二種)養成も併設し、社会に役立つ高度職能人養成コースを開設しております。

(関) 製菓専門課程があるということは、若い人に人気のあるパティシエの勉強もできるということですか？

(岡) そうです。さらに素晴らしいことは、今年三月実施された管理栄養士の国家試験の合格率が全専門学校の中で一位を、大学を含めた全国管理栄養士養成校一二五校中で第二二位まであがってきたことです。

(関) それは素晴らしい！その秘密は何だとお思いませんか？

(岡) やはり、建学の精神が今に生きている



日本食品保健指導士会

関本邦敏会長

伝統の力と、優れた教師陣のお陰だと思えますね。学生の努力と情熱に満ちた教育力で、本校の卒業生は優秀な方々が多く、多方面で活躍されています。卒業生でご子息、お孫さんまで本校に通わせる例もあるほどです。

(関)それは、益々素晴らしいお話ですね。(岡)就任早々、お陰様で、このようないい状況に恵まれておりますが、さらに向上させなければならぬというプレッシャーはありますね(笑)。しかし、がんばりますよ。

父親譲り “世のために努力する心”

(関)ところで、岡部さんの出身地はどちらですか？

(岡)私は山口県の長門市仙崎生まれ、山口市、宇部市育ちです。

(関)そうですね、私の家内の出身地も同じ山口県で萩です。

(岡)おとなりですね。世間は狭い(笑)。終戦直後、戦後外地からの引上げ港となった先崎検疫所長時代に生まれたそうです。生涯、公衆衛生・保健教育・衛生行政と日赤血液センターに係わり確固たる信念をもって仕事に当たっていました。私は成長過程で父の影響を大きく受けたと思っています。

(関)そうですね、学校でのご専門は？

(岡)最終は、東京大学大学院理学系研究科、生物科学、Biochemistryを専攻です。

(関)様々な研究活動をされてこられたのでしょうかね。

(岡)様々なジャンルに挑戦する機会に恵まれ、組換えライイス開発、健康志向腸内細菌加工食品、医薬品、化粧品開発、対外診断薬開発研究などにも係りました。降圧剤、元氣ホルモン(TRH)、骨粗鬆症薬、糖尿病薬などのDDS (Drug Delivery System) 研究では国内外で評判になったこともありました。

(関)しかし、必ずしもすべてが成功したわけではありません。例えば、一滴の血液で多項目分析ができる画期的な臨床検査キットの開発もすすめていきましたが、健康保険点数が十分に適用されそうになく、経済性の問題でお蔵入りとなったものも昔話となりました。

(関)それは残念ですね。そのような検査キットは、上手に活用すれば結果的に医療費低減につながる可能性があると思いますが…。

(岡)わが国は、新しいものの実用化まで技術のほかにも多くの壁がありますね。

(関)そうですね。そのほかに活躍されたことは？

(岡)活躍ほどではないのですが、ポストドックで西ドイツマックスプランク研究所育種学研究所遺伝部、ダンディ大学生物学部に留学。そのほか、北里大学医学部、日本女子大学家政学部や東京大学応用微生物研究所で非常勤講師、星薬科大学大学院客員講師などを務めさせていただいたりもしました。

(関)留学もされ、先生もされたんですね。

(岡)はい、ほかには、最近、地球温暖化問題と取組むNPO活動で、「微細藻類を用いるCO₂固定実証試験」を都立農業高キャンパスを借りて一年半スピリルナ大量培養(食材にもなる)研究もしました。

(関)まさに変幻自在のご活躍ですね。

(岡)そんなことはないのですが、ベターエイジング研究所を作るのが夢なんです…。

(関)それは素晴らしい、ぜひ実現してください。

(岡)しかし、その夢に向う中で、当校の校長にという話を頂戴したんです。

(関)夢を中断してその決断をされたんだと思います。どのようにして？

(岡)当校の歴史を知り、また、栄養や食事の教育のことを考えているうちに、健康と密接に係わっていることなので、自分でお手伝いできるフィールドであると悟り、引き受けることにしたのです。

(関)なるほど。やはり、お父さんの生き方“世の中のために努力する心”が生きているということでしょうか。

(岡) そうだと思います。

「食品保健指導士」を

公的資格にしたいですね。

(関) 指導士の資格を取られた動機はどのようなことでしたか？

(岡) かつて、予防医学的食品開発やワクチン産生植物開発など研究していた頃から、健康食品業界ならびに消費者と厚生労働省とのあり方にも興味をもち始めていました。そのような折に、日健栄協が発表されたわが国初の「指導士養成講習会」のカリキュラムを見て「あつこれだ！」と興味をもちました。

(関) 私も同じように、健康食品に関する勉強を体系的にできるといふところに関心をもちました。

(岡) 今、本校では、NR(栄養情報担当者)受験講座を開設しています。様々な資格研修や試験会場として施設利用をご提供中です。指導士会でも研修会や将来資格試験会場としてご利用のご検討をさせていただきますよ。

(関) ありがとうございます。念頭にいれておきます。ところで、昨今、(独)国立健康・栄養研究所の梅垣さんが中心となつて厚生労働省のバックアップのもと「アドバイザー・スタッフの実態調査」を行っています。日健栄協もそれに協力していますが、ご存知でしょうか？

(岡) 知っています。

(関) いずれ、いくつかのアドバイザー・スタッフが大団結して、公的資格となればい

いと思っておりますが…。

(岡) そうですね。例えば、レベルを合わせるための試験などのハードルがあつたとしても、資格取得者や一般消費者のために、その方がよいでしょうね。

(関) 我々としては、その大団結の核には、日健栄協になつて欲しいと願っております。

(岡) 私もそう思います。日健栄協の存在意義は大きいものがあると思います。

(関) 「エコナ」のトクホ引き下げ以来、巷では、消費者庁がトクホの制度の見直しをしているなどの風評が流れておりますが、いかがお考えですか？

(岡) 「エコナ」は、難しい判断です。あれが悪いというなら、タバコの害の方がもっと危険度は高い、市場から消してしまうのではなく、危険性ありと表現する道もあり？

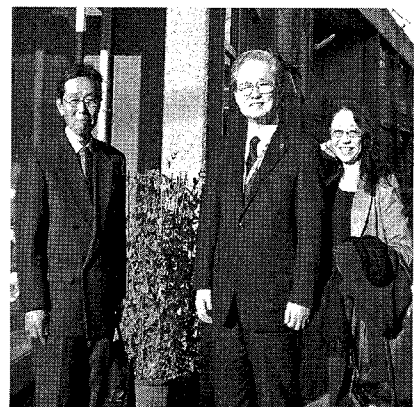
(関) 本当ですね。トクホは、明らかに国民の健康維持に貢献していると思えますが、あのように行政の軸がブレると企業は開発意欲をなくしかねません。

(岡) そうかもしれませんね。

指導者教育は人格形成が重要です。

(関) なるほど。ところで「食育」についてはいかがお考えでしょうか？

(岡) 食生活が乱れている現状、重要な問題だと思っております。当校では、管理栄養士・栄養士の免許と栄養教諭免許も取れる選択があり、あらゆるライフステージ、栄養に問題を抱える人々へ、「食育」の推進者となりうる



関部力事(左から)岡部木見、松山幹事)の前。玄豆の発芽、正面に見えるのは、院長の発元、右側は、院長の脇に、今年も、食糧本会一に

建学の精神をバックボーンとして人間愛に満ちた活動ができるよう研鑽を積んでいます。

(関) 食の教育だけでなく、人間教育が重要だということですね。

(岡) そうです。説明は同じでも信頼できる人か否かで受け取り方は違ってきます。

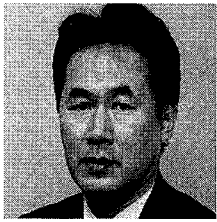
(関) この考え方は指導士にも当てはまりません。

(岡) そうですね。医師、薬剤師、教師など人々を教育するすべての立場の人には、絶対必要なことだと思っております。

(関) 本日は、感銘深いお話しを沢山お聞きかせいただきありがとうございます。

(岡) 温故知新、食の原点にもどり、バランスのよい食事、進化する食品を活用して、少子高齢社会を支える壮年層も、栄養学を学び、実践を通してみんながベターエイジングのため、指導士のみなさま、みんなががんばりましょう。

「よいお年をお迎え下さい。」



日本食品保健指導士会 Webページに関して (7) 【超初心者のためのインターネット講座】

幹事 阿部 真

= エラーメールについて =

あなた宛に、MAILER-DAEMONやMail Delivery Subsystemから、英文メールが届いた事はありませんか？

これは、「メールサーバ」から自動的に返信されるメッセージです。主に、「あなたが送信したメールが何らかの理由で相手に届かなかった場合」に送られてきます。

今回は、このエラーメールについて対処方法を述べます。

メールの本文(英文)を見ればだいたいの原因は分ります。いくつかの例を挙げて説明します。

・その1 本文(英文)中に、User unknownという文がある場合

これは、あなたが送信したメールのユーザー名(@より前の部分)が存在しなかったという意味です。送信先メールアドレスの入カミスか、既にメールアドレスが存在していない事が原因と思われる。対応としては、相手のメールアドレスを確認の上、再送信してください。

・その2 本文(英文)中に、Host unknownまたは、host not foundという文がある場合

これは、あなたが送信したメールのホスト名(@より後ろの部分)が存在しなかったという意味です。送信先メールアドレスの入カミスか、既にメールアドレスが存在していない事が原因と思われる。対応としては、相手のメールアドレスを確認の上、再送信してください。

・その3 本文(英文)中に、Message size exceeds remaining quotaという文がある場合または、host not foundという文がある場合

これは、あなたが送信したメールの相手の「メールボックスの容量」が一杯になっていることを意味します。相手にサーバー上のメールを削除してもらった上で、再送信しましょう。また、設定によっては、すべてのメールがサーバーに残ってしまう場合があります。自分のメールサーバも時々不要なものが残っていないか、また、容量一杯になっていないか確認しておきましょう。

・その4 本文(英文)中にMessage exceeds maximum fixed size という文字がある場合

これは、あなたが送信したメールのサイズ(添付ファイルのサイズ)が大きすぎる事を意味します。メールで送信できる1通あたりのサイズを越えている事が原因です。添付ファイルを圧縮するなどしてサイズを小さくした上で再送信してください。また、サイズが大きいファイルを送るときには、あらかじめ相手に確認を取るなどのマナーが必要です。もしも、どうしても大きいファイルを送りたい場合には、オンラインストレージサービス(サーバー上にファイルを預かってくれるサービス)などを利用するようにしましょう。預かり期間の制限などがありますが、無料のサービスもあります。

なお、MAILER-DAEMONは実在のユーザーではないため、返信しても意味がありません。また、最近では、これらのメールを装ったウイルスメールや、迷惑メールも存在しますので、御注意ください。メールを出してから、長時間返事が来なかったりした場合、上記のような原因でメールが相手に届いていない場合があります。電話など他の方法で確認を取ったりしてください。また、メールを出した相手は、届いていないかも、と心配しているかもしれません。メールが届いたら、速やかに、受け取った旨だけでも返信すると相手も安心できます。逆にすべてのメールに、開封確認メールを要求する人がいますが、もらったほうはわずらわしい場合があります。重要なメールだけに開封確認メッセージを要求するようにしましょう。各人が、ウイルス対策や、仕組みを理解し、マナーを守り、便利な道具としてIT技術を上手に利用してください。

「秋期研修会」開催

《大阪会場》

- ◆開催月日：平成二十二年一月一七日（土）
一三時三〇分～一六時五〇分
- ◆開催場所：新大阪丸ビル新館四〇五号室
- ◆演題：①『サントリーの健康補助食品』トクホ・JHFA・その他
②『食と医療に果たすビタミンC誘導体の役割』
健康科学研究所 部長 太田裕見 先生
- ◆参加者：八一名（内指導士二〇名）
- ◆懇親会：会場／ニューオオサカホテル
参加／一一名

《東京会場》

- ◆開催月日：平成二十二年一月一四日（土）
一三時三〇分～一六時一五分
- ◆開催場所：財団法人健康・栄養食品協会（以下日健栄協と記す）三階会議室
- ◆演題：①大豆サポニンの機能性、②健康食品の安心安全の取り

- ◆講 師：榎フアンケル総合研究所
学術研究室 マニュアルゲル
プマネジャー 前山美樹 先生
- ◆参加者：四〇名

《名古屋会場》

- ◆開催月日：平成二十二年一月二八日（土）
一四時～一六時三〇分
- ◆開催場所：愛知県産業労働センター
九〇五号室（9F）
- ◆演題：『アドバイザリースタッフの有用性と将来性について』
- ◆講 師：鈴鹿医療大学 教授 医療栄養学科学科長 長村洋一 先生
- ◆参加者：二〇名
- ◆懇親会：会場／八丁ぼり
参加／一三名

本年五月の通常総会において、秋期研修会は、従来の東京会場、大阪会場のほかに名古屋会場を加え、三会場での開催を決定しました。これは、今年の四月に、日健栄協において指導士の資格更新制度がスタートしたこと、また東海支部活動が開始されたことを契機として、中部地区の会員へのサポート体制を充実する目的によります。

一〇月一四日に開催した大阪会場は、神戸薬科大学が同大学関係の指導士資格取得者の資格更新研修会と認定し、同大学同窓会との共催となりました。同大学の関係者六一名、

当会会員二〇名、合計八一名の参加を得、大盛況となりました。

十一月一四日開催した東京会場は、日健栄協三階会議室が満席になるほどの盛況で、過去最高の四〇名の参加者を得ました。

十一月二八日に開催した名古屋会場は、二〇名の参加者でした。会場予約、会場設営・受付・司会、資料準備等すべて東海支部の幹事の方々が実施して下さいました。懇親会は講師の長村先生を囲んで、楽しいひと時を過ごしました。

三日間の参加者の合計は一四一名（内指導士は八〇名）でした。開催に当って協力下さった日健栄協様、講師の先生方、役員の方々に深く感謝申し上げます。

講演概要

- ① 『サントリーの健康補助食品』
トクホ・JHFA・その他
サントリーウエルネス㈱ 健康科学研究所 部長 太田裕見 先生
- ② 品質保持から健康維持
- ③ サントリーが上市したトクホ製品
- ④ ゴマに含まれる抗酸化物質・セサミン
- ⑤ セサミンのアルコール代謝促進作用
- ⑥ 乳幼児のアラキドン酸の必要性
- ⑦ アラキドン酸の脳機能改善作用
- ⑧ ウーロン茶の健康効能研究
- ⑨ 黒烏龍茶の内臓脂肪の低減効果

二、②『食と医療に果たす

ビタミンC誘導体の役割』
㈱アスコルバイオ研究所
代表取締役 山本格 先生

① あなたを作る細胞ホルモン

② 二一世紀の医療は予防医療である

③ 生活習慣病について

④ ビタミンCについて

⑤ 新規安定型ビタミンC誘導体の発明

⑥ 私たちの身体

三、『①大豆サポニンの機能性、

②健康食品の安心安全の取り組み』

㈱ファンケル総合研究所

学術研究室 マニュアルグループ

マネジャー 前山美樹 先生

① 最新トピックス／発芽米ステロール

配糖体（PSG）の機能

② 大豆の機能成分／イソフラボン、大

豆レシチン、大豆サポニン、活性大

豆サポニンB型（ファンケル独自機

能成分）

③ 健康食品の安心安全の取り組み／食

生活におけるさまざまなトラブルと

食の安全の考え方、食品の安全確保

としてどのようなことがなされてき

たか、品質保証・品質管理の考え方

④ ファンケルの取り組み・FSQ、

四、『アドバイザリースタッフの有用性と将

来性について』

鈴鹿医療大学 教授 医療栄養学科

学科長 長村洋一 先生

① アドバイザリースタッフって何です

か？その法的位置付け

② アドバイザリースタッフの社会的地

位はどのように位置付けられるだろ

うか。厚生労働省の最近の動き

③ アドバイザリースタッフは具体的に

どんな活動ができるか。

④ 認定者に対し全国各地で研修会を年

四回以上開催し、毎年更新試験を続

行しています。

⑤ アドバイザリースタッフを予防医学

の灯台的存在として位置付ける。

⑥ 会員の情報がこんな事件で活躍しま

した。白いんげん豆食中毒事件

⑦ 健康食品と医薬品の相性については

⑧ こんな問題の指標になる書籍はある

のだろうか。

⑨ 社会もこんな活動に注目をし始めて

います。メディアの最近の扱い

⑩ アドバイザリースタッフの今後の活

躍。何ができるか？

日本食品保健指導士会

支部活動レポート

第一回東海支部研修会

東海支部 事務局長 千種ゆう子

一、日 時：平成二十一年一〇月三十一日

一三時～一六時

- 二、場 所：㈱知ヤクルト工場 愛知県日進市
- 三、講 演：「食品の安全は
- トップの思いから」
- 四、講 師：㈱愛知ヤクルト工場
- 代表取締役社長 落 亨 先生
- 五、参加者：一四名
- 六、内 容：

質問に答える落社長様



四月に東海支
部が誕生して以
来、初めての支
部研修会の開催
となりました。

今回は、河村

紀子指導士（愛

知県ブロック長）

の勤務先であり

ます愛知県ヤク

ルト工場を訪ね

工場見学と同社

の落社長様の講

演を拝聴するこ

とになりました。

当日は一四名

の方が集い、有

意義な時を過ご

しました。

その後、八名

の参加者は懇親

会場へ移動し、

語らいのときを

楽しみました。

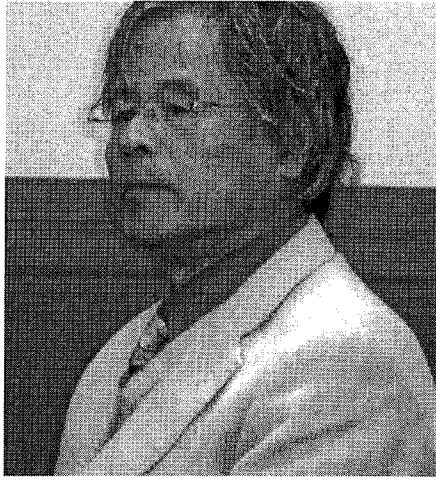
（支部活動レポートの項、一二頁に続く）

全員揃って！



◆主催／日本食品保健指導士会

◆後援／（財）日本健康・栄養食品協会



▲ 講師／山本先生

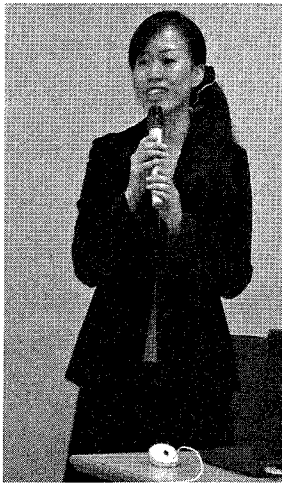


▲ 挨拶／関本会長



▲ 司会／坂口近畿支部長

大阪会場



▲ 講師／前山先生

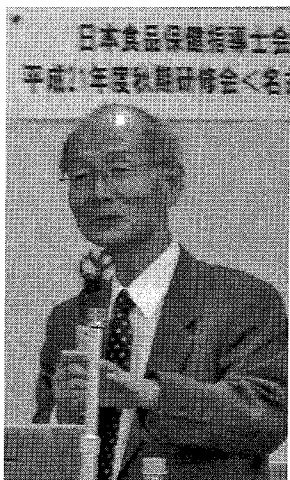


▲ 会場風景①



▲ 挨拶／関本会長

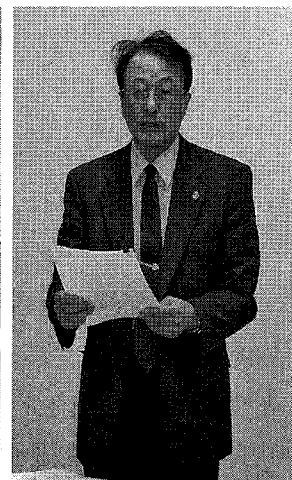
東京会場



▲ 講師／長村先生



▲ 会場風景



▲ 司会／柴田支部長

名古屋会場

平成 21 年度 「秋期研修会」

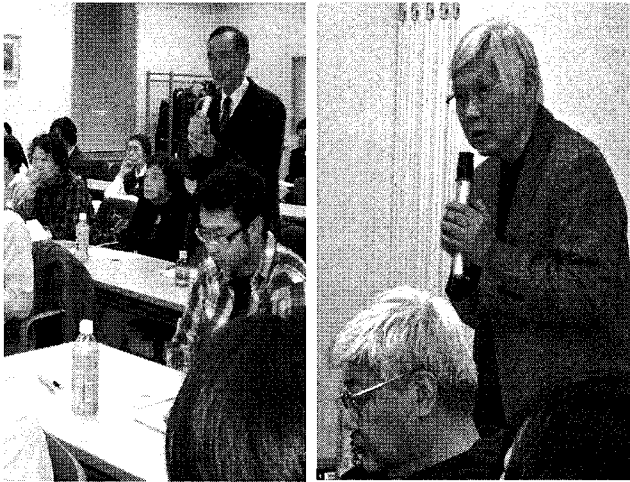
▼ 会場風景②



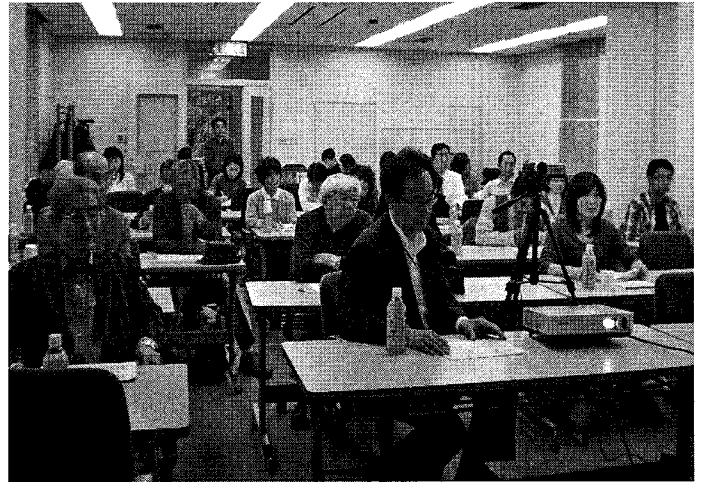
▼ 司会／松山幹事



▲ 講師／太田先生



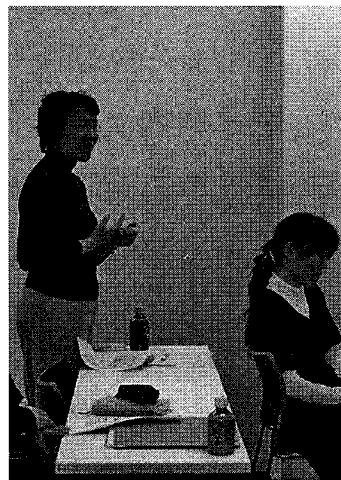
▲ 熱心な質問者 ▲



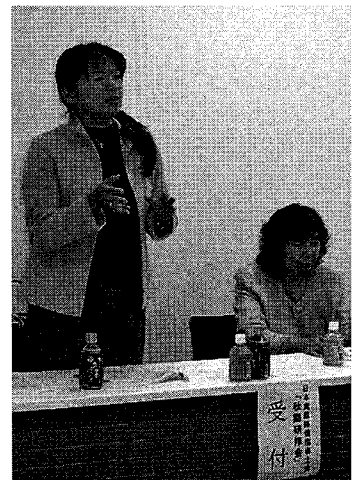
▲ 会場風景③



▲ 懇親会場前にて



▲ 質問する千種指導士

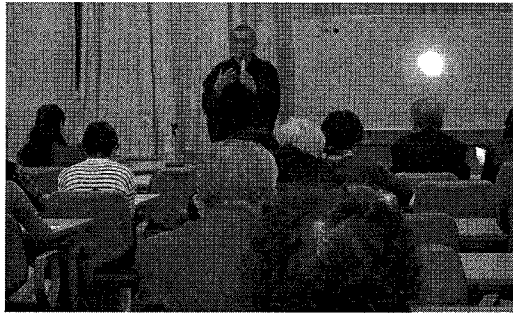


▲ 質問する若生指導士

「第二回東京支部」研修会

東京支部 松本 三恵子

- 一. 日 時：平成二十二年一月二日
- 二. 場 所：(財)日本健康・栄養食品協会 三階会議室
- 三. テーマ：誰も知らない牛乳のお話
- 四. 講 師：(有) 想いやりファーム
取締役社長 長谷川竹彦 先生
- 五. 出 席：四五名
(食品保健指導士三九名、一般六名)
- 六. レポート(左記)



熱弁をふるう長谷川社長

お話ししていただきました。

身近な食品の牛乳を、なぜ「想いやり牛乳」として販売をしているか、生産者であり販売者である立場から牛への思い、飲用される人の食の安全の想い、加熱殺菌を行わない無殺菌牛乳がつけられた過程など、

また市販の加熱殺菌された牛乳と想いやりファームの無殺菌生乳との飲み比べもできました。
牧草の管理や牛が受けるストレスの事など活発な質疑応答が行われました。一般の参加者からも「大変勉強になりました。またセミナーの案内をお願いします。」との声も聞かれました。

日本食品保健指導士会活動

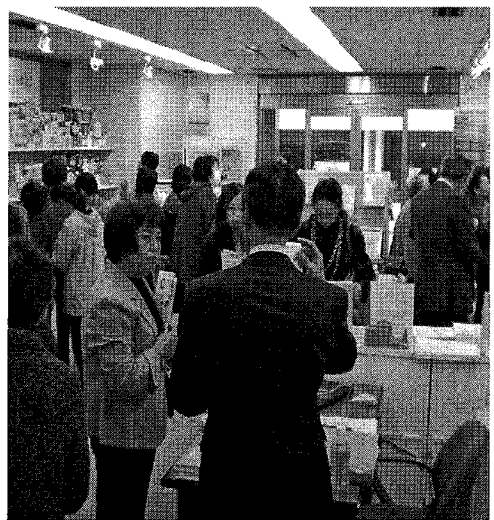
袖ヶ浦市「食生活改善推進員」

研修を実施

Ⅱ日健栄協と指導士会の協力にてⅡ

昨年、杉浦上太郎指導士が、千葉県君津保健センターの依頼によって、同地区の栄養士協議会及び食生活改善推進員対象に「トクホ、健康食品」に係わる講演を行いました。
そのことが契機となって、その隣の市である袖ヶ浦市より食生活改善推進員対象の研修会の依頼が寄せられました。
日健栄協の協力を得て、その要望に応えました。

- 一. 日 時：平成二十二年一月五日
一〇時三〇分～一二時
- 二. 場 所：(財)日本健康・栄養食品協会 三階会議室・一階展示ルーム



講義の後、展示ルームで見学

- 三. 内 容：「歓迎の挨拶」/(財)日本健康・栄養品協会事務局長 藤嶋英二郎
- 四. 講 話：「健康食品の話」/日本食品保健指導士会 会長 関本邦敏
- 五. 見 学：一階展示ルームにて
- 六. 参加者：三四名

★委員募集★

幹事会と会員、また一般消費者等とのコミュニケーションが益々重要となつてまいります。ふるってご応募ください。

◆「Web Page」委員

◆「会報」編集委員

希望者はFAXにてご連絡ください。

FAX 03-3268-3136

〓事務局〓